1	審議会名	第5回 塩田地域協議会
2	日時	平成23年8月18日 午後1時30分から午後5時07分まで
3	会場	上田市塩田公民館小ホール
4	出席者	伊藤委員、大口委員、岡村委員、甲田委員、小林委員、清水委員、関田委員、竹下委員、中村委員、南雲委員、西沢委員、丸山委員、南委員、峯村委員、若林委員
5	市側出席者	翠川地域交通政策課長、柳沢同課地域交通係長、田中同課同係主事、神林塩田地域自治センター長、海瀬地域振興政策幹、志摩センター長補佐
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	2人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成23年8月22日
協議事項等		
1	開 会	(神林自治センター長)
2	地域協議会長あいさつ	地域協議会の今委員も、2年目に入って5回目の会議となった。今回は、地域交通についての検討や協議として、市の担当者の出席をいただいたので、内容についてしっかり聞いていただき、今後の活動や対策の流れを作っていくために重要な会議である。真剣な協議をお願いしたい。
3	市地域交通政策課職員紹介	
4	懇談	
	(1) 地域交通について	
		塩田地域の交通の現状と課題について(市地域交通政策課から説明) 別所線電車存続における地域でのサポートに対して感謝と御礼を申し上げる。別所線電車については、観光や教育資産としても残していかなくてはいけないと考えている。
		別所線の輸送人員は、平成20年度が125万4千人、21年度が121万3千人、22年度が119万1千人と毎年減少しており、約2,500~3,400万円くらいの損失が生じている。公的支援については、平成16年度からの合計で国が約2億788万円、県が約9,728万円、市が約7億3,564万円となっている。
		別所線利用促進の取り組みとして、別所線電車存続期成同盟会や再生支援協議会が主体となって実施している事業には、自治会回数券販売あっせん、別所線沿線写真撮影会の開催、利用促進講演会等の開催、利用促進チラシ配布などがある。また、市民団体等が主体となって実施している事業には、別所線と走ろう、歩こう!・ラン&ウォーク、別所線トレインパフォーマンス、沿線駅美化活動などがある。更に、上田電鉄が主体となって実施している事業には、企画切符の販売、利用促進イベントの開催、観光PRなどがある。
		今後の課題等については、「乗って残そう」をキーワードとした利用促進活動の推進、国・県の補助金の活用、市としての公的支援の継続などが挙げられる。
		一方バス利用者数の推移においては、一般路線バスの塩田線や信州の鎌倉シャトルバスなどは、利用者が減少しており損失が拡大傾向にある。コミュニティバスのオレンジバスについては、利用者が若干増加しているものの収入は減少傾向にある。
		バス路線における今後の課題等については、人口減少や少子化等社会情勢の変化などによりバス利用者は減少してきており、バス事業者が自社で運行していた路線も全て赤字であり、利用者の少ない路線は減便や廃止の懸念がある。
	(委員)	生活路線バスの損失が一番大きい。別所線の平成22年度の損失2,466万9千円は、累積で残っていくのか。

- (地域交通政策課) 色々な事業を合わせて、会社全体で決算としているので多少黒字となる。
- (委員) 別所線電車存続期成同盟会では中央、東部、北部、南部、西部の自治会連合会が新たに加
入してもらってよかった。バスも電車も赤字なので、皆でがんばろうということだと思う。
- (地域交通政策課) 電車は、「乗って残す」運動の展開によりもう少しで黒字になるが、バス対策
が重要である。以前から複数の市町村にまたがる路線については、国や県の補助があったが
塩田線も本年度から国庫補助の対象となった。バス路線の維持や収入増の考え方がポイント
である。
- (委員) 東日本大震災による観光客の減少を改めて感じた。札所めぐりについては、公共交通機関
が通っているのでありがたいと思う。札所めぐりは、市民団体が主体となって行う実施事業
になりうるものと思う。寺や神社を、観光客の呼び込み対象としてみればよいと思う。文化
財に対する意識改革も必要だと思う。
- (委員) 別所線電車利用者において、定期券と切符の利用者の割合は分かるものか。バス路線と電
車の組み合わせが必要で、企業への協力依頼も必要である。
- (地域交通政策課) 定期券と切符の利用者の割合については、定期券利用者が約 46%で切符の利
用者が約 54%である。なお通学と通勤の割合は、3:2 程度である。
- (委員) オレンジバスの運賃は、60 歳以上も有料にしてもいいと思う。そうすることにより、バ
ス全体の収益が上がる。
- (地域交通政策課) オレンジバスは、6 路線有り年間約 1,200 万円の運行経費がかかるが、週 2 回
の運行であり福祉バスの的に利用してもらえばよいと考えている。路線バスにたくさん乗っ
てもらいたい。
- (委員) 路線バスに乗る人を増やすことが必要である。福祉の立場から言えば、全ての自治会を回
るべきであり住民も多少の我慢をする必要がある。
- (委員) 平坦地にはバスが通っているが、東前山にはバスは来ない。不便なところを回ってもらい
たい。
- (地域交通政策課) 路線は、基本的に中心部(駅)からの放射状となるので難しい面がある。
- (委員) 別所線電車と周辺のバスの接続について考えてもらいたい。
- (地域交通政策課) そのとおりで、バスと電車の組み合わせが重要である。
- (委員) バスの状況を知らない人が多いと思うので、機会があるごとに状況を説明してもらいたい。
- (委員) 7 月 22 日の信濃毎日新聞に、真田地域での公共交通利用に関する取組み記事が載ってい
た。住民が現状を確認する中から、連携した取組みが必要である。
- (委員) 別所線電車存続については、期成同盟会の運動が重要だが、事務局にお任せの運動となっ
ている。自らの出資による活動となっていない。期成同盟会に新たに会員となった自治会連
合会の会費は、6,000 円から 10,000 円となっている。塩田地区の各自治会連合会の会費は、
20,000 円で各戸による住民負担には相当な理解が必要である。地域交通の存続においては、
地元の活動を重視すべきで信濃国分寺駅利用促進協議会の活動に学ぶところがある。地域交
通を利用するための活動や運動を創りあげることが重要である。
- (会長) 地域交通存続のための組織を作ることについては、次回に考えたいので地域交通委員会で
継続的に考えてもらいたい。
- (副会長) 信州の鎌倉シャトルバスは、冬期間運休となるがその対策について検討してあるのか。
- (地域交通政策課) 地域の意見集約をしてからバス会社と協議することとなる。
- (会長) 地域交通の存続については、今期中に考えをまとめたいと考えている。
- (地域交通政策課) 真田地域では、別所線電車存続期成同盟会のような組織を目指しているよう
である。

(2) 「困りごと」アンケート調査について

- (副会長) 民生児童委員会へ、高齢者等の「困りごと」アンケート調査にあたり、協力をお願いし
ていた件について正式に断りの連絡があった。理由は、新任の民生児童委員が多く荷が重く
てためだとされたが、今後どのようにしたものか。

- (委員) アンケートの狙いは何か。
- (副会長) 住民同志の助け合いが出来ないものか、現状の確認と状況の把握が狙いである。民生児童委員会役員への当初の説明では、よい感触が得られたと感じていたが。
- (委員) 民生児童委員は、社会福祉協議会で行なっている「御用聞きサービス」があるので、重複していると思ったと思う。
- (委員) 買い物など交通弱者がいる中で、自治会からの声が上がってこないことがおかしい。このアンケート調査で実態が分かることであって、基礎資料となるもので大変重要なものである。皆の意見を吸い上げるのは自治会だと思うので、やる方向で進めてもらいたい。
- (委員) 自治会が窓口でアンケート調査を実施するとなれば、民生児童委員にお願いすることになると思う。
- (委員) アンケート調査は、進める方向でお願いしたい。
- (委員) アンケート調査は、社会福祉協議会塩田地区会へ協力を求めたらどうか。
- (委員) 昨年地域の福祉懇談会において、地域交通のことについて話したことがきっかけで議論するようになった。当時は、地域の声がなかったことと、地域交通の課題に目が向いていなかったことだと思う。
- (委員) アンケート調査は、75歳以上の全員を対象とするのか。
- (会長) そのように考えている。
- (委員) 地域住民には、「困りごと」に対するサービスを知らせてあげることが出来ればいいと思う。
- (委員) アンケート調査については、正式に機関決定したうえで民生児童委員会に依頼すればよかった。自治会連合会や民生児童委員会の役員会で協議すればよかった。
- (委員) アンケート調査の結果をどうするのが課題である。フィードバックの方法はどのようにするのか。
- (委員) 自分の自治会では、一人暮らしの住民を対象に状況を把握してある。
- (会長) アンケート調査をすることは、事前に話してあるので確認済みと理解している。調査内容項目については、本日話したので内容について確認してもらいたい。9月には自治会連合会の役員との懇談会があり、10月に再度自治会長と懇談したいと考えている。
- (委員) 自分の自治会では、自治会長が許可を出せばアンケート調査はできる。
- (委員) 調査項目として、家族と同居の項目は必要か。
- (委員) 入浴に関する項目も必要ではないか。
- (委員) 「困りごと」に優先順位を付けたほうがよいことと、自由意見記入欄を拡大してはどうか。
- (会長) アンケート調査の目的と調査への協力を求める前文については、次回までに作製するので了解してもらいたい。自治会で調査をお願いする場合は、該当項目がなくても回収するようにしたほうがよいものか。
- (委員) 全ての方から回収したほうがよい。
- (会長) アンケート調査については、再度協議することとします。

(3) 各委員会報告

- 地域振興委員会 特になし
- 地域交通委員会 特になし
- ため池活用委員会 ため池マップの作製については、10月を予定している。看板の設置作業については、順調に進んでいる。

(4) その他

- 事務局 市地域自治センター条例第8条第3項では、「市長は、委員の委嘱にあたり、委員の構成が対象地区の市民の多様な意見が適切に反映されるものとなるよう配慮するものとする」としている。地域協議会は公開であり、協議内容は委員の選出団体や機関などに持ち帰って協議をする中で、再度協議会の議論に反映するものとしている。しかしながら、協議内容のキ

ヤッチボールが出来ていないことから、地域の課題等について委員の選出団体や機関に考えや意見を改めて文書で提出をいただきたい。

5 その他（当面に日程）

9月協議会	9月15日（木）	13:30（3者会議 15:30）	塩田公民館小ホール
10月協議会	10月20日（木）	13:30	塩田公民館大ホール
11月協議会	11月24日（木）	13:30	塩田公民館大ホール

6 閉会

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。